

3

きょう
今日はクリスマス・イブ。

あさ ふ つづ ゆき ゆうがた や けはい み
朝から降り続く雪は、夕方になっても、止む気配を見
せません。

プレゼントの つつ かか かえ いそ ひとびと なか
プレゼントの包みを抱えて、帰りを急ぐ人々の中に、
ひとり しょうじょ
一人の少女がいました。

しょうじょ おお ふくろ かか ある
少女は、大きな袋を抱えながら、とぼとぼと歩いて
いました。

ぼうし てぶくろ さむ ふる
帽子も手袋もつけず、寒さで震えていました。

「マッチはいりませんか。だれか、マッチを買ってくだ
さい・・・」

しょうじょ みち ゆ ひと こえ つづ
少女は、道行く人に声をかけ続けました。



5

よ ぶ 夜も更けて、^{みちゆ ひと すく}道行く人も少なくなってきました。

ふ^{まち ある}と町を歩く少女^{しょうじよ め}の目に、とある家^{いえ まど}の窓からもれる
あ^{と こ}明かりが飛び込んできました。

^{いえ なか}家の中では、テーブル^{まわ}の周りに家族^{かぞく あつ}が集まり、^{たの}楽しそ
うに^{しょくじ}食事をしていました。

や^た焼き立てのローストチキンの、^{おい}美味しそうな匂い^{にお}がし
てきました。

「ああ・・^{なか す}お腹が空いたなあ・・」

^{しょうじよ}少女は、しばらくその様子^{ようす}をながめていましたが、
やがて^{ある はじ}また歩き始めました。



2 1

It was Christmas Eve.

The snow, which had been falling since the morning, still seemed to keep falling in the evening.

Amid the people rushing with their presents in hand, there was a little girl.

The girl was creeping along with a big paper bag. She was shaking from cold since she didn't have a hat or glove to wear.

“Would you like some matches? Please buy some…”

The girl kept talking to the people passing by.



23

Late at night, less people were seen on the street.

When the girl was walking around, she suddenly saw the light coming out from the window of a house.

Inside the house, a family was gathering around the table and having dinner happily.

There was a savory smell of freshly cooked roast chicken.

“Oh... I’m hungry.”

The girl was looking inside the window for a while, but eventually started to walk again.

